



国労せんだい

こくろうせんだい FAX版

号外
2011年4月16日
発責 橋本 昭二
編責 武田 昌仙

東日本大震災

組合員被災状況報告

4月15日午前現在 地方本部まとめ

第二次集約に全力を

地方本部は指示第34号（3月24日）において、「東日本大地震」被災者状況の調査について（国労本部指示第65号）に基づき、組合員の被災状況を指示しているが、一定の集約がなされたので報告する。

4月15日午前まで 地方本部まとめ

- なお、4月7日深夜に発生した、巨大な余震により、新たな被災が確認されるなど、最終的な集約にはまだ時間を要する。
- 家族死亡 6名
- 家族安否不明 4名
- 家屋全壊 9棟
- 家屋流出 9棟
- 家屋水没（床上）

- 浸水含） 7棟
- 車流出 10台
- 家財損壊 53件

行動予定

- 第34回アスベスト対策委員会
5月22日（日）13時
国労会館4F
- 第35回アスベスト対策委員会
6月11日（土）13時

被災を受け、また原発による避難等もあり、思うように整理が進まない機関もあるが、第二次集約（4月19日地方本部到着）の報告に全力を尽くすよう、あらためて要請したい。

郡山駅前ビッククアイ

- 各支部・分会 代表者会議
5月15日（日）13時
国労会館6F
- 春闘事務局 総括会議
5月15日（日）15時

各地から支援物資続々

4月12日午前中、新幹線地本の仲間が乗用車とトラックに分乗し、支援物資を届けてくれた。

物資の内容は自転車6台、米、水、トイレトペーパー、ティッシュペーパー、ウエットティッシュ、大人用紙オムツ、毛布、大人と子供の下着と靴下、タオル、子供の靴等。

12日の段階では、仙台宮城野運輸区分会の皆さんと被災者、仙台駅連分会が物資を受け取りに来られ、また自転車については2名が希望を申し出ていますと報告されている。14日には、広島地本から米、レトルト食品、長靴、ゴム手袋、また、鳥栖地区分会からは義援金が届けられた。15日には米子地本と広島地本から米が届き、また東海工リア本部と西日本エリア本部からは、本部の宣伝カーと神戸から2台トラック、大型ワゴン車3台に、目一杯の物資を積んで、5名の役員が地方本部に激励に訪れた。内訳を記載すると、米、長靴（約150足）、ゴム手袋、

業務連絡

地方本部の日常の業務時間等については、国労せんだいファックス版3月20日付で周知している通りであるが、現在も余震が続き、今後大きな余震の可能性が指摘されている現状である。

従って引き続き、当分の間（連休明け頃まで）現行の業務時間体制を継続することを執行部と各支部代表で確認した。具体的には、五十嵐書記長は高速バスで地方本部に通勤する。

地方本部書記は9時30分から16時までの業務とし、一人業務を回避する。

会館管理業務の高橋氏は日中の勤務とし、不測の事態に備え、一人では残らないことを基本とする。

会議室を支部・分会等が使用する場合は在仙の役員が対応することとする。

宮城県支部については秋山執行委員長を中心に部屋の管理等をお願いする。